

指定管理者制度導入施設の管理運営実績について(平成30年度)

調査表

施設名	県立阿波岐原森林公園
指定管理者	マリンパークス
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日(5年間)
県所管部課	県土整備部 都市計画課 美しい宮崎づくり推進室

1 施設利用状況

指標	H30	H29	H28	増減理由等
阿波岐原森林公園 (単位:人)	53,908	53,767	72,045	平成30年度は7～10月の台風や猛暑により利用者が少ない期間もあったが、自主事業でドッグランを増設したことで、利用者が増加し、前年度並みの利用者数となっている。
コメント	地域との協働に力を入れており、地域との連携を十分に図りながら各種の媒体を活用した情報発信や事業の推進に努めている。引き続き、利用者増加に繋がる幅広い事業の展開が期待される。			

2 施設収支状況

(単位:千円)

収入	H30	H29	H28	支出	H30	H29	H28
指定管理料	53,516	55,182	53,120	人件費	30,469	30,082	22,992
自主事業等	1,224	986	960	需用費・役務費等	12,718	11,077	12,966
				使用料等	3,714	1,449	1,205
				経費	6,569	10,527	9,218
				自主事業支出	718	683	930
合計(①)	54,740	56,168	54,080	合計(②)	54,188	53,818	47,311
収支差額(①-②)	552	2,350	6,769				
コメント	業務の効率化と植栽・維持管理費用の軽減を図るため、植栽の見直しや自前での修繕等、作業方法の見直しも行っている。施設の収支状況は適正である。						

3 管理運営状況

※下線部分は、平成30年度に新たに取り組んだ内容

事項	実施内容	
維持管理業務	清掃	園内清掃、トイレ清掃、照明器具清掃
	保守・点検	照明点検(週1回)、浄化槽点検(月1回)、排水設備点検(随時)、冠水持の通行規制等
	警備	巡回パトロール(毎日1回)、管理事務所夜間機械警備
	修繕	外灯、地下散水栓取替、トイレ、浄化槽、四阿、ウッドデッキ、ドッグラン扉等
	備品等管理	適正な利用・保守管理
	安全対策	安全管理会議(月1回)、危機管理体制マニュアルの整備(冠水、火災、地震、津波)、津波避難誘導訓練
	その他	植栽管理業務(樹木・芝・花壇等)、施設維持管理業務(園路・トイレ・駐車場他)
企画運営業務	サービス提供体制整備	ドッグラン、レンタサイクル、レンタルハンモック貸出、各種マップ(公園周辺ガイドマップ、阿波岐原散策マップ、神話マップ、春のツツ葉神話と花めぐりマップ)の作成・配布、パンフレット(「公園で遊ぶルール」、「パークガイド」)作成・配布、「利用者の声ノート」によるニーズ把握及び事業への反映
	イベント等ソフト面充実	花の無料配布、犬・猫の譲渡会、親子工作教室、サイクリング探検、市民サイクリング大会、サイクリングでふるさと発見、入り江観察会、寄せ植え教室、ガーデニング講習会、阿波岐原を再発見、HP作成・更新
	施設設備等ハード面充実	ドッグラン施設の増設、安全に子供が遊べる冒険広場の整備(木材チップ利用)、レンタサイクル設置、番号付き案内板の設置、公園管理事務所への無料Wi-Fi設置、津波避難誘導板の設置
	その他	憶地域まちづくり推進委員会の環境保全活動(干潟の保全、コアジサン営業活動)に参加、地域と協働して地域を花で飾る「春のツツ葉神話と花めぐり」の実施
管理運営体制	職員技能講習開催、施設・植物管理技術資格取得講座受講、行政出前講座(個人情報保護、地球温暖化対策)受講	
コメント	「阿波岐原・臨海公園運営協議会」を設置し、地域の関係者と意見交換し事業に反映させている。パトロールスタッフに「利用者の声ノート」を携行させる等して、利用者からの意見や要望にも適切に対応している。適切な人員配置を行うことにより利用者の安全確保に努めていることなど、全般的に施設の管理運営は適切に行われている。	

4 利用者満足度状況(利用者満足度調査、苦情・要望対応)

調査等方法	アンケート調査等
調査結果、主な苦情・要望内容	その対応結果等
バイクの進入や犬の放し飼いを止めさせてほしい。	巡回により注意・指導を強化した。

5 総合評価

評価コメント	緑溢れる安全で快適な環境を提供している。海岸沿いの松林や干潟等の地域特性を活かした自主事業(サイクリングに神話を絡めた事業、環境保全を目的とした事業等)にも積極的に取り組んでいる。また、事業実施の際は、地域との関わりを特に重視しており、公園の魅力アップ及び地域活性化に努力している。必要な管理運営体制のもと、適正な管理運営が行われている。
今後の課題と対応	宮崎を代表する国際リゾート地としての特性を活かしながら、引き続き、フェニックスリゾート株式会社、更にはフローランテ宮崎などの周辺の施設と連携した事業の推進が求められる。